

O5-025

PPAS日本語版の開発と信頼性・妥当性の検討—乳児を養育する父親の愛着の実態調査と関連要因の探索—

谷口 育¹⁾、涌水 理恵²⁾

¹⁾筑波大学大学院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラム 博士前期課程、²⁾筑波大学 医学医療系

【目的】社会情勢や家族形態が変化するなかで、父親への負担が増大しているにもかかわらず、父親への支援は十分とはいえない、喫緊の課題となっている。本研究では、乳児に対する父親の愛着の強さを評価する尺度であるPaternal Postnatal Attachment Scale（以下、PPAS）日本語版の開発および信頼性・妥当性の検証を目的として行った。**【方法】**まず、原著者らから日本語版作成の承認を得た後、翻訳プロセスに基づきPPAS日本語版を作成した。次に、完成した尺度を用いて、乳児を養育する父親150名を対象とした横断的研究を実施した。対象者はWeb調査委託会社を通じて募集し、調査項目は父親の属性、母親の属性、子どもの属性、父親を取り巻く状況、PPAS日本語版、Mother-to-Infant Bonding Scale-Japan（以下、MIBS-J）、Edinburgh Postnatal Depression Scale（以下、EPDS）とした。**【結果】**探索的因子分析の結果、原版と同様の3因子構造が示されたものの、各項目が帰属する因子に違いが見られた。尺度全体および各下位尺度のCronbach's α 係数は.658～.859、再テスト法による再現性は.647～.814であり、中～高い内的一貫性が確認された。併存的妥当性の分析では、PPAS日本語版の総得点および下位尺度得点とMIBS-J総得点の間に有意な負の相関が認められた。さらに、既知集団妥当性の分析では、EPDS総得点が8点未満の群と8点以上の群でPPAS日本語版総得点に有意な差が見られた。重回帰分析では、「24時間以内のふれあい経験の有無」、「実子の人数」、「妻との関係性」、「EPDS総得点」の4変数がPPAS日本語版総得点に有意な影響を示すことが確認できた。この結果から、妻との関係性が良好で、1人の子どもで産後早期に子どもとふれあう経験があり、産後抑うつ状態にない父親ほど愛着が強いことが示された。**【考察】**本研究により、PPAS日本語版が父親の愛着の強さを客観的に評価する有効なツールであることが示された。本尺度を活用することで、地域社会において支援を必要とする父親の存在を明らかにし、支援を提供することが可能となる。特に、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」や乳児健診における活用が検討されることで、父親が孤立するリスクを軽減する一助となる可能性がある。また、父親支援の取り組みが父親と子どもの愛着形成を促し、家族全体の良好な関係づくりや育児環境の改善に貢献することが期待される。

智子（新潟大学 大学院保健学研究科）

泰広（金沢医科大学 小児科）

O5-026

周囲の他者との体験が、障害のある子どもを同胞にもつきょうだいにもたらす影響の検討

深沢 淳子¹⁾、阿部美穂子²⁾

¹⁾山梨県立大学大学院 看護学研究科 博士後期課程、

²⁾鹿児島純心大学 人間教育学部 教育・心理学科

【目的】障害のある同胞をもつきょうだいの、同胞や障害に関連した他者との体験の記述を先行文献から抽出し、他者との体験がきょうだいにもたらした影響について検討する。

【方法】医中誌web、CiNii Researchを用い、「障害」と「児」と「きょうだい」を検索語として得た、きょうだいの他者との体験記述が含まれる35文献を精読して体験記述を抽出した。類似の体験を分類し、カテゴリーの概念と概念の説明を作成した。各カテゴリーの概念、体験の内容、概念間の関係から、他者との体験のきょうだいへの影響を検討し考察した。

【結果】体験記述は251抽出され、17のカテゴリーに整理された。17のカテゴリーの概念は、【1. 同年代の子どもと比べて、同胞の発達や行動の違いに気づく】【2. 他者から同胞や障害の理解を助けてもらう】【3. 他者への同胞に関する説明について困惑する】【4. 他者の心ない言動に、辛い気持ちや嫌な気持ちになる】【5. 他者から期待する“きょうだい”像や“きょうだい”的役割を求められる】【6. 同胞の障害を他者に知られないように振る舞う】【7. 同胞の障害について聞かれる前に、他者に話しておく】【8. 同胞が他者に迷惑をかけないように気を遣う】【9. 他者から奇異の目で見られると感じる】【10. 他者と自分との違いに気づいてさびしさや羨ましさを感じる】【11. 他者から哀れみをかけられる】【12. 事情を知らない他者の無責任な発言に憤りを感じる】【13. 同胞に直接関わっていながら理解が不十分な他者に不満や怒りを感じる】【14. 他者が同胞を特別視せずに関わってくれる】【15. 他者に安心して話せる】【16. 他者から気にかけてもらえる】【17. 他者に自分の気持ちをわかってもらえる】であった。

【考察】他者との体験がきょうだいにもたらした影響には、(1) 他者がもたらすきょうだいの同胞理解、(2) 直面した他者との傷つき体験とそれを踏まえた他者に対する防御的行動、(3) 他者家族から気づかされる一般的なきょうだい関係・家族関係の喪失、(4) 他者からきょうだいへの配慮の欠けた関わりに対する葛藤、(5) きょうだいの期待に反した他者の言動が引き出す不満や怒り、(6) 他者による同胞の受容がもたらすきょうだいの安心感、(7) きょうだい自身が他者から得る配慮や理解、があると考えられた。今後、きょうだいへの直接の調査により、他者との体験がもたらした影響への自身の意味づけについて明らかにすることが課題と考える。